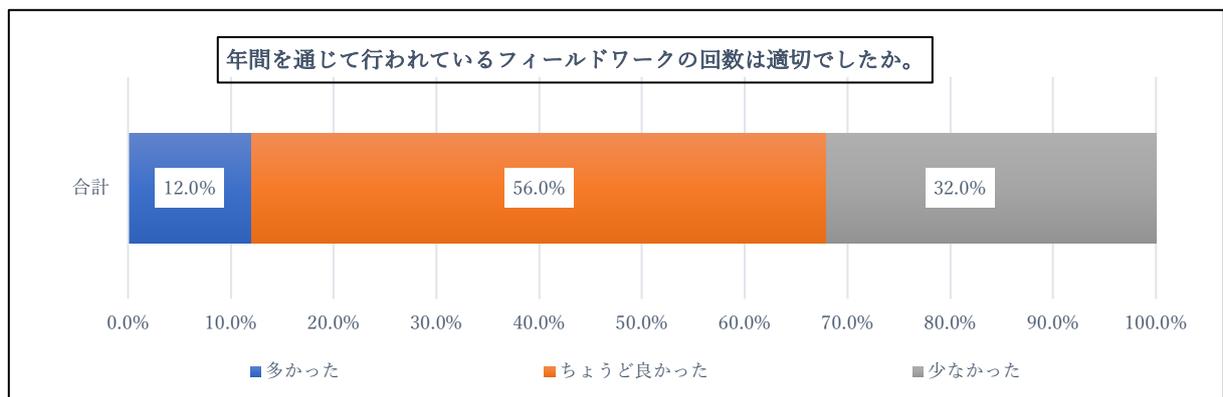
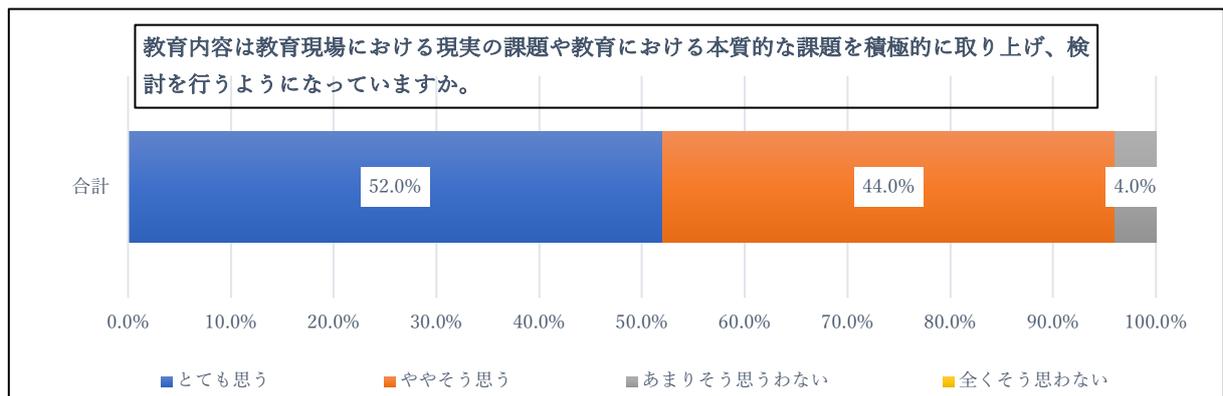
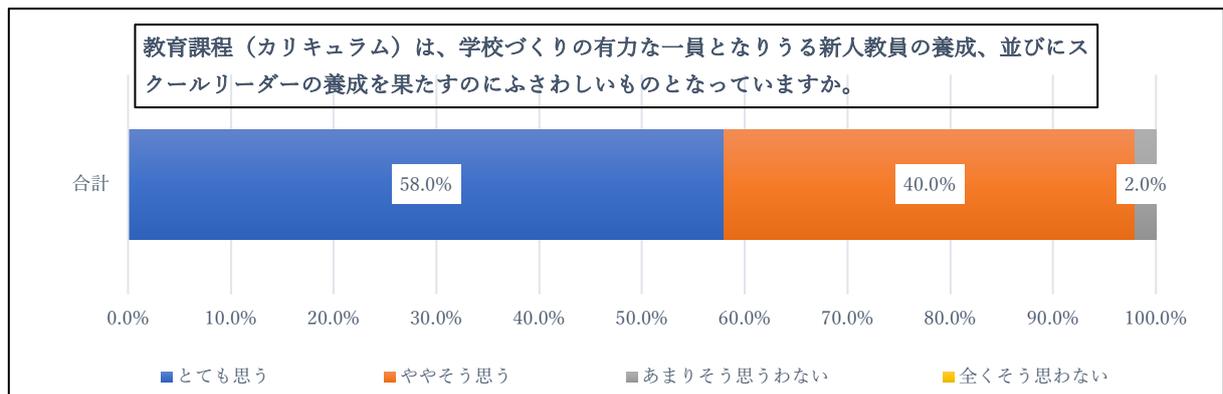
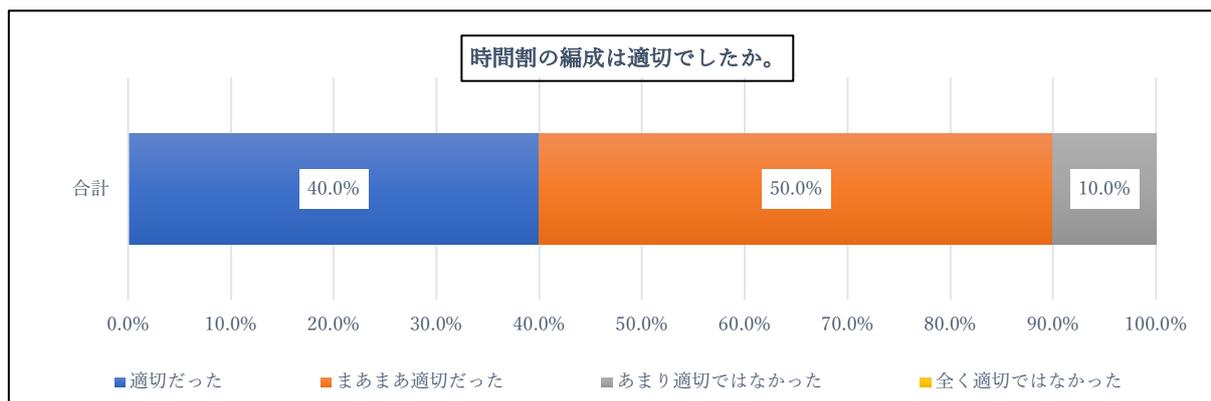


## 2020 年度「研究科アンケート」

昨年度（2019 年度）の研究科アンケートについては、コロナ禍の影響に伴い郵送による実施となったが、十分な回答が得られていなかったため、比較可能な 2018 年度の結果からの改善傾向等を中心として、2020 年度の結果の特徴について以下にまとめることとする。

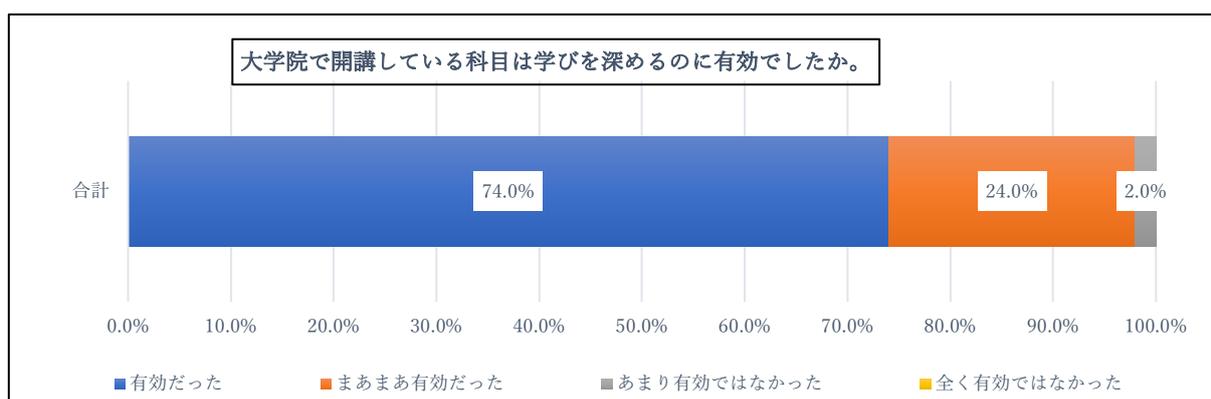
### (1) 教育課程について

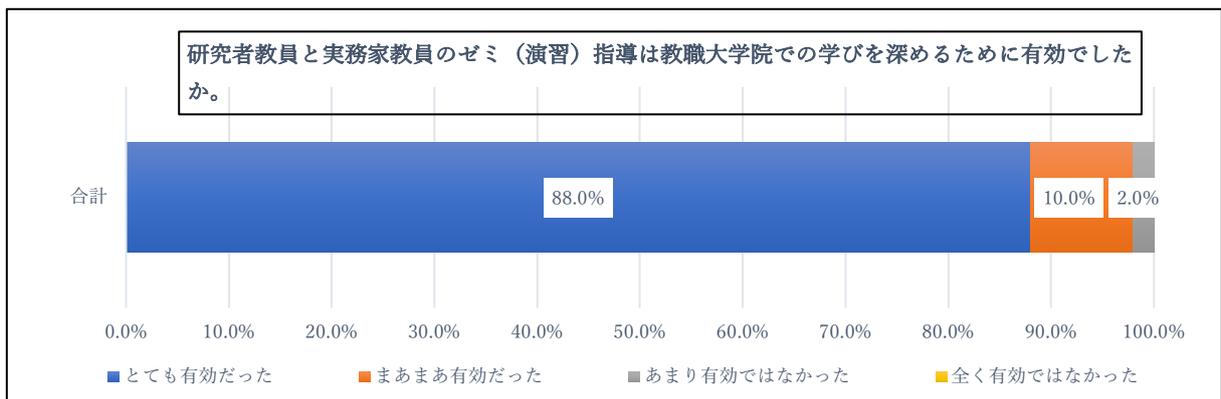
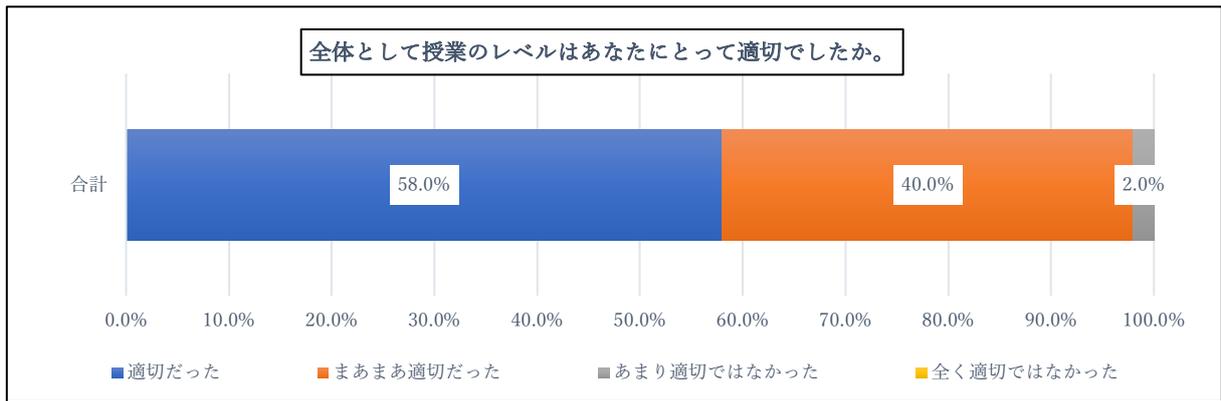




「教育課程について」は、おおむね良好であり、比較可能な 2018 年度から改善傾向にある項目が多く、FD 活動の継続による成果が表れていると考えられる。ただし、フィールドワークについては、コロナ禍の影響により中止やゲストスピーカーへの変更があったため、「少なかった」との回答が 3 割を超えた。

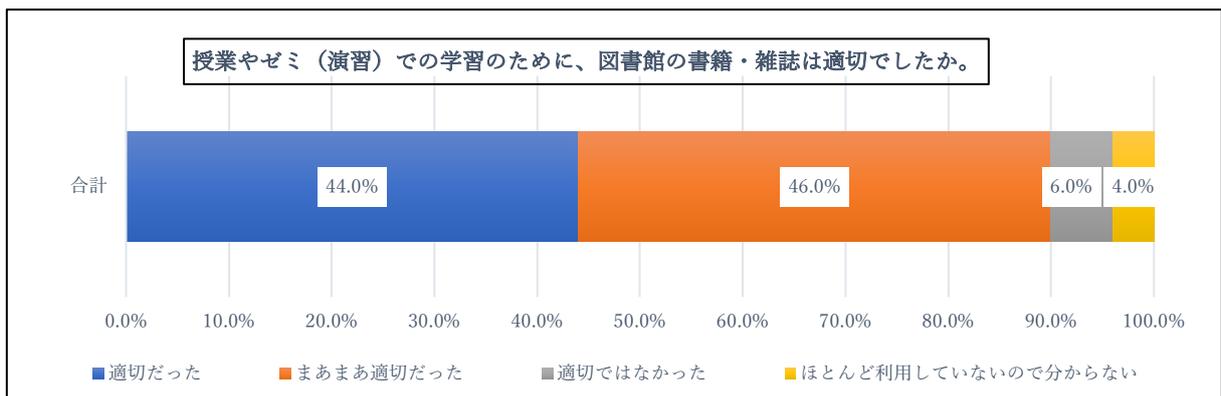
## (2) 授業について

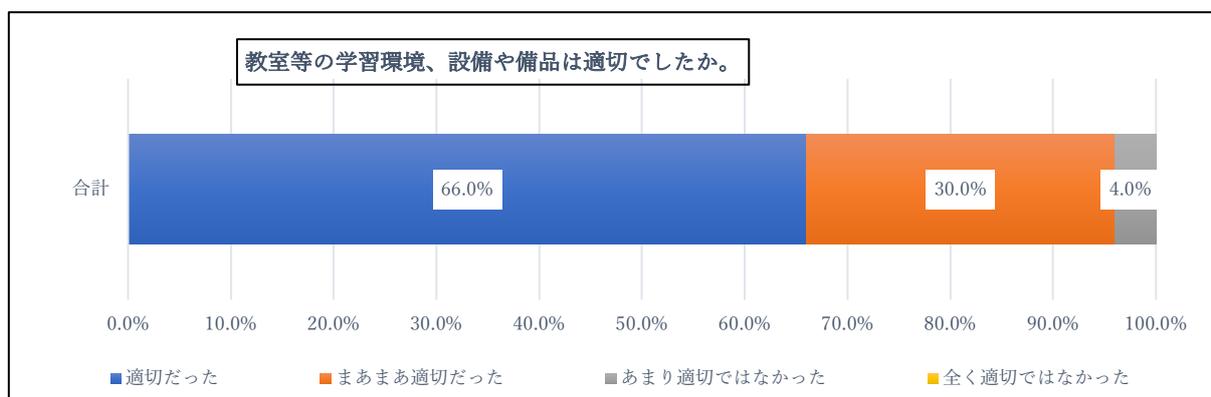
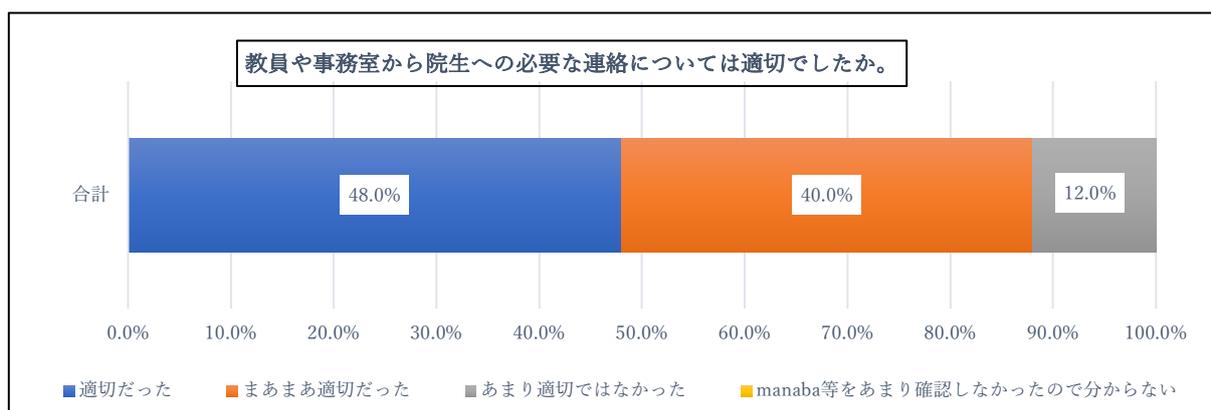
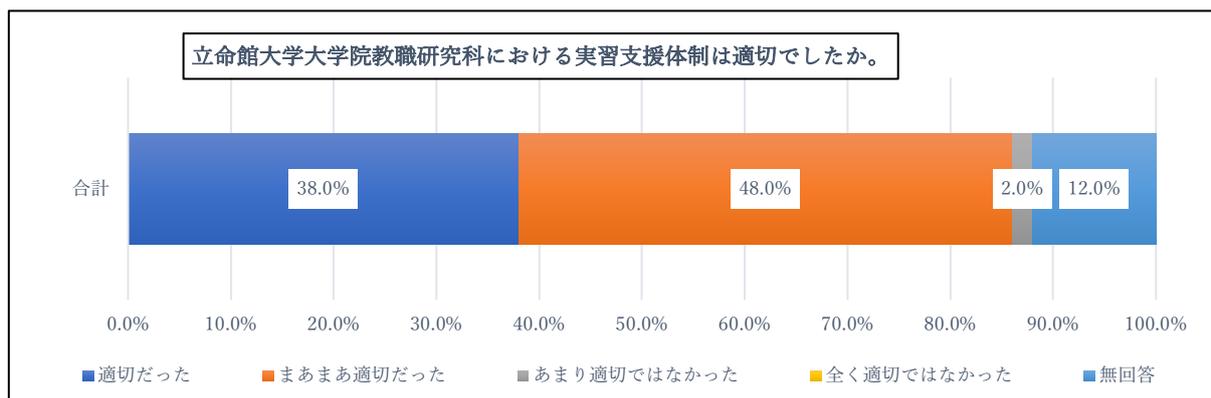
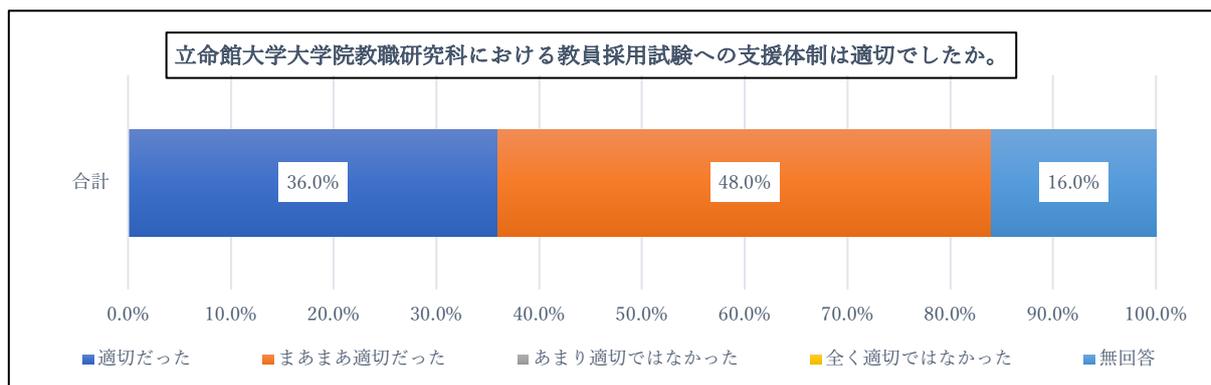




「授業について」の結果は、比較可能な 2018 年度から大幅に改善された項目が多い。特に研究者教員と実務家教員のゼミ（演習）指導について、各ゼミでの指導の改善・充実とともに、教員間での連携や役割分担が明確になりつつあることが推察される。

### (3) 学生支援について

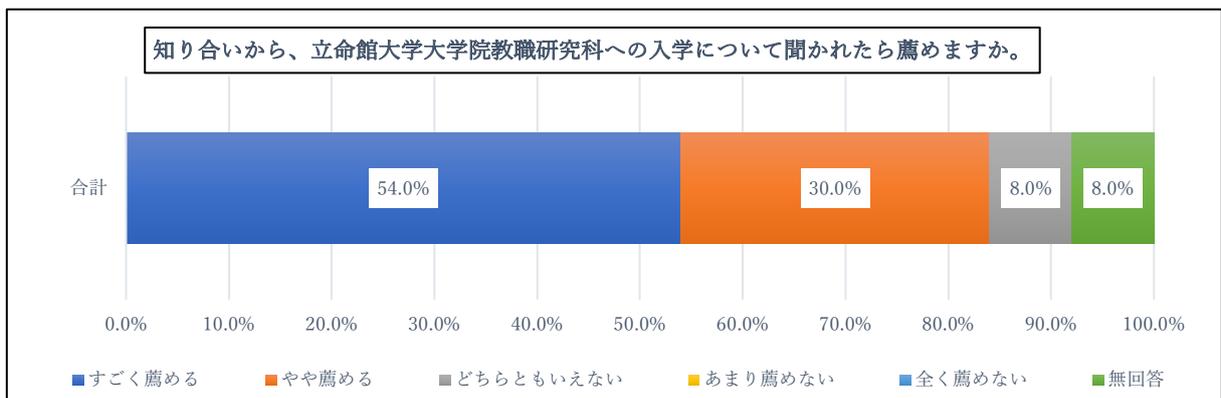
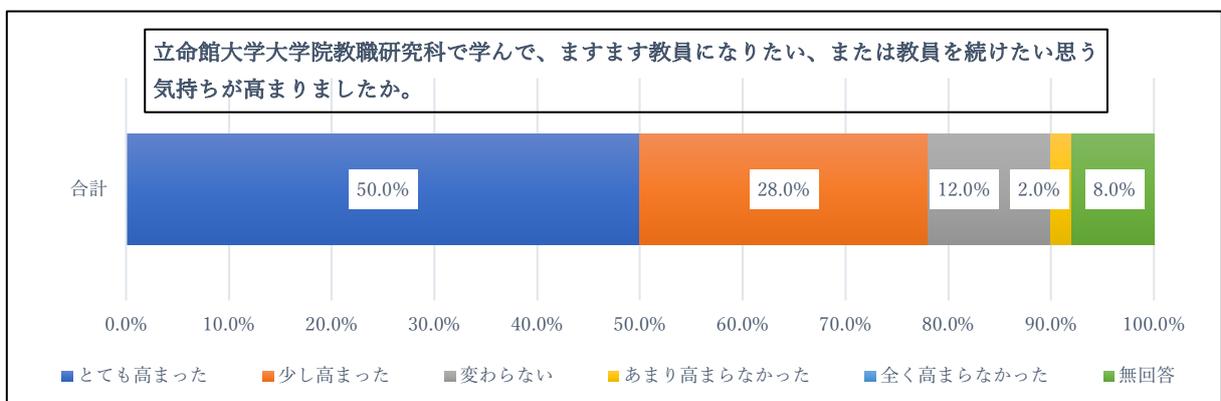
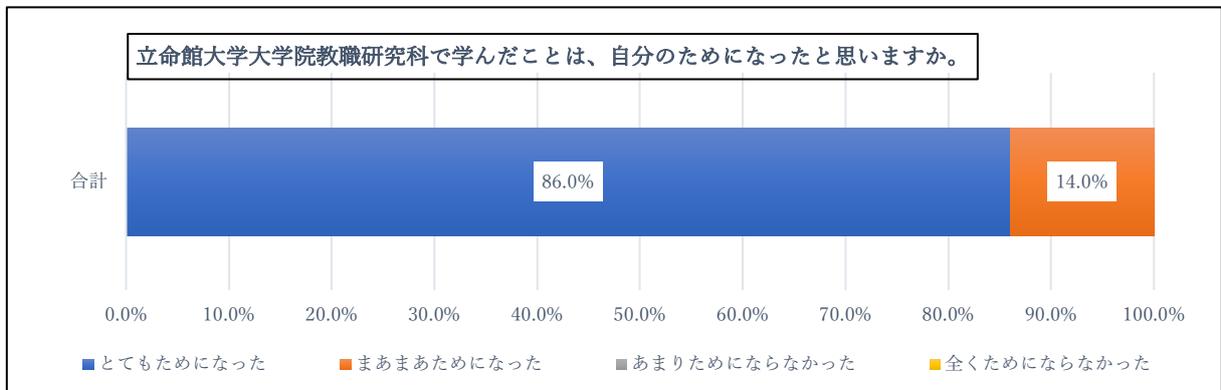




「学生支援について」について、図書館蔵書のさらなる充実等、改善の余地は残されているが、比較可能な2018年度からは大幅な改善が認められた。教員採用試験への支援体制については実務家教員を中心として専任教員が総出で取り組んでいる成果が表れていると考えられる（無回答は採用試験に合格している者や現職院生である）。実習支援体制についても大幅に改善して

おり、教職大学院の実習に関して実習校と共通理解が図られてきている。また、教室等の設備更新及び迅速なオンライン授業対応等による成果も回答に表れている。

#### (4) 全体を通して



ほぼすべての学生が、教職大学院の学びが自分のためになったと回答している。教員になりたい、教員を続けたいと思う気持ちに関して「変わらない」「あまり高まらなかった」という回答は、元々それが高かったとも考えられる。また、知り合いに本学の教職大学院への入学を薦めることについても、「あまり薦めない」「全く薦めない」という否定的な回答はなく、2018年度と比較して改善が見られた。